

やなかわ

YANAGAWA 2013.

No.194

4月15日

今号の内容

ページ

- ◆小型家電のリサイクル始めました 2
- ◆分別して減らそう！燃やすごみ 3
- ◆固定資産税課税明細書は届きましたかほか 4～5
- ◆麻しん風しん2期接種、水の精決定 6
- ◆おいでメッセネット販売、市職員人事異動 7
- ◆市民のひろば(8-9) ◆俳句(9) ◆情報わいど(10-14) ◆ぬくもり(14) ◆もちふみデビュー(15) ◆人権・同和教育シリーズ(16)



桜散る中 勇壮に

桜まつりが開かれていた高畑公園で3月31日、流鏑馬が奉納されました。飯塚市の小笠原流流鏑馬宗家の源長統さんらが約300メートルの参道を駆け抜けながら、90メートル間隔に置かれた3つの的を狙って矢を発射。時折サクラの花びらが舞い散る中、狩り装束の射手が馬上から矢を射る勇壮な姿に、観客たちは拍手を送っていました。

人権作文

市内の小中学生が書いた人権作文を紹介します。

「きらい」と言う
私がいらい



三橋中学校 3年
川口 実季 さん

「きらい」でもないのに、「きらい」と言っている自分自身が、きらいです。私は人に流されやすく、周りに合わせて悪口を言うことが多くあります。

ある日、私は何人か友達が集まっているところに行きました。「○○○○キモくない」「あー、それうちも思った。」と、だれかの悪口を言っていました。よく話を聞くと、悪口を言われている人は私と仲が良く、その人の良いところならいくらでも言え

るくらい友達で、大好きでした。でも、「○○のこときらいだよね。」と、聞かれると、好きとは言えませんでした。私の心の中では、ここで好きと言ったら、私が何か言われるかもしれない。どうしようかと怖くなって仕方ありませんでした。

それに比べて私の大好きな友達とは、そんなことを考えている私とは対照的で、何を言われても自分を曲げない人でした。私には、そんな友達がとてもかっこよく見えました。

ある日、私たちは学校の総合の時間とき「チクチク言葉、ふわふわ言葉」という題材で人権について考える学習がありました。ふわふわ言葉は、人の心を思いやるとても温かい言葉のことでした。チクチク言葉は、人を思いやる気持ちがない悲しい言葉のことでした。授業は、普段自分たちが使っている言葉を紙に書き、ふわふわ言葉とチクチク言葉のどちらに属するかを考え、黒板にはりつけていくという形式で進んでいきました。みんなほとんど言葉を書いて、黒板に入りきれないほどの紙がはられました。しかし、約3分の2はチクチク言葉でした。キモい、ウザい、きらい。見てい

ただでとても悲しい気持ちになりました。自分が言われるところを想像すると、とても怖くなりました。普段、私たちが軽い気持ちで口に出している言葉は、とても大きな責任が伴うことを、あらためて実感しました。

学習を終えて、友達が気持ちをちゃんと伝えていくこととはすごいことだと思いました。私も友達を見習って自分の気持ちを伝えられるようになりたいです。

自分で判断して、自分の言葉に責任を持ち、人を大切にできる人になりたいと思いました。一人一人の人権を大切に、軽い気持ちで

人権

環境

共生

この作品は、川口実季さんが2年生の時に書いたものです。

【評】 普段、私たちが使っている言葉には、人と人をつなぐ大きな役割があります。川口さんは、友の意見と自分の気持ちの間で揺れ動く微妙な心の内を通して、何気なく口に出している言葉の大切さに気づいています。

で人をけなしたり、ののしったりしない人に私はなりたいです。そして、人にやさしい言葉をかけてあげられる私になりたいです。

人権

環境

共生

この作品は、川口実季さんが2年生の時に書いたものです。